

2015年12月25日

萩ジオパーク推協だより

No. 8

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510

TEL : 0838-21-7765

e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp

HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会 事務局

《報告》萩ジオパーク構想・プロモーションビデオ制作の進捗状況

NHK 総合テレビ「さわやか自然百景 山口・阿武火山群」の制作に当たられた松林 明氏により、萩ジオパーク構想のプロモーションビデオの制作が進んでいます（「さわやか自然百景」制作の様子は、本紙 No.1・2 を参照）。萩ジオパーク構想紹介映像の制作に当たっては、構想紹介のA4三つ折りパンフレットの内容を踏まえ、11月6日から12日にかけて、各地で再度撮影を行いました。初上陸の見島では、観音崎のダイナミックな火山活動の跡に、大いに感動しての撮影作業となりました。ビデオの完成予定は2月末で、収録時間は映像の単位時間である15分間に無理やり収めることになりそうです。

なお、推進協議会では、松林さんにこれまでに映像制作を通じてみえた萩の自然の魅力を語っていただく講座を、来年2月21日（日）、萩博物館を会場に考えています。ふるってご参加ください。また、新年1月1日（金）、午前7時20分から8時28分まで、NHK 総合テレビ「さわやか自然百景新春特番『四季・日本 火の国の恵み』」が放映され、その中で、阿武火山群・笠山も紹介されます。



(写真上：ダイナミックな観音崎でのロケ)

萩ジオパーク講座 特別編・ジオパークを体験しよう

Mine 秋吉台ジオパーク認定記念フェスティバルに参加しました 12/5(土)

12月5日（土）、Mine 秋吉台ジオパークが日本ジオパーク（GP）に認定されたことを記念するイベントが、秋吉台国際芸術村において開催されました。萩ジオパーク構想推進協議会も会員および一般市民の方16名が一緒に参加しました。会長である美祢市長さんの挨拶に続き、2つの小学校が取り組んでいる子どもジオガイドの実践発表がありました。基調講演の講師とパネルディスカッションのコーディネータは、当市でも講座講師を務めていただいた柚洞一央・徳山大学准教授でした。3つのジオパーク（室戸世界 GP、山陰海岸世界 GP、Mine 秋吉台 GP）で活動している市民がパネラーとして登壇。活動のきっかけやどんな思いで活動しているのかといった熱い語りを聴くことができました。プログラムの最後は「ジオ落語」。「ジオパークを親しみやすいものに、ということで、Mine 秋吉台 GP が昨年取り組んでいる創作落語です。立川志ら乃師匠による新作・「長登銅山」に大いに笑い行事を終了しました。ロビーでは、全国の GP 紹介や Mine 秋吉台 GP を紹介する大学生制作によるポスター展示、地域産物を目指す「ジオパン」の販売なども行われていました。



(小学生による子どもジオガイドの実演)

全体を通して、室戸世界 GP のパネラーの次の発言が、とても印象的でした。「ジオパークだから活動しているのではない。これまでやっていた活動を続けていこう、地域を守ろうとしたら、ジオパークの活動と重なった。特別なことはやっていない」。来年の登録を目指す萩としても、とても参考になる記念行事でした。

萩観光セミナー・ボランティアガイド

「おもてなし講座」(12/14・15)に参加して 推進室 埜山桂子

今までは、「自分がジオパークを学ぶ」という立場で、講座やツアーに参加してきました。今回の講座は、「私がおもてなしをする」「お客様をご案内する」という立場での勉強会でした。

まず、「ジオパークとは」を自分が暮らしている地域を含め、わかりやすく伝えること。たとえば、江戸時代の絵巻物と比べて、現在の火山や地形の様子を伝えるという切り口。これは萩ならではの伝え方だと思いました。ご案内する時、専門的な用語が出てきます。もちろん正確に伝えることも大切ですが、地元の方の話を盛り込むことで親しみやすく伝わるようになります。現地研修は、あいにくの雨でした。今回は予定通りの見学でしたが、天候に応じたコースの変更・代替を考えるなど、柔軟さと安全に配慮することの大切さを感じました。

また、コウライタチバナ自生地では5本を観察することができ、ちょうど多くの実をつけていました。植物や動物など生育の状況が変化するのは、日頃から情報を得ることで、話題性のある話ができると思いました。笠山の火口では、講師の方が「8,800年前に噴火した時、風がどのように吹いていたでしょうか?」と質問がありました。降り積もった堆積物によって推し測れること、五感に触れる話し方はとても印象に残りました。自分の言葉で案内できるように、自分の足で歩き、まずは『私のフィールドノート』を作り、「おもてなしできる」技術を身につけたいと思います。



(自生するコウライタチバナの観察)

コラム

4月以降の取組を振り返って

事務局長 福島康行

今年もまもなく暮れようとしています。4月30日にジオ推協の設立総会を行い、5月には千葉であった日本ジオパーク委員会の新規認定地域プレゼンテーションを視察、7月にかけてNHK番組「さわやか自然百景」のロケを支援し、8月にはMine秋吉台ジオパークの現地審査を視察、9月のAPGN山陰海岸シンポジウム、10月の日本ジオパーク霧島大会参加と、大きなイベントが目白押しでした。お陰様で、その間には各地域で学習会、出前講座やモニターツアーを約50回行うことができました。あっという間に過ぎ去ったというのが実感です。

一方、弥富地区で7月に「龍が通った道まつり」が開催され、これまでの学習会に参加された方々がジオツアーのガイド役を務められました。越ヶ浜小学校や弥富小学校では、子どもたちによるジオガイドも視野に入れた地域学習が進められています。一步一步着実に市民主体のジオパーク活動が推進されており、事務局としても大変心強く感じています。こうした活動は、平成16年からNPO萩まちじゅう博物館が取り組んできた、「萩の魅力を再発見するとともに、萩のまちのお宝を守り育てながら、誇りをもって次の世代に伝えていく」まちづくりの活動とともに、まさに萩がジオパークとなるに相応しいものであると考えています。

来年はいよいよ4月に日本ジオパークネットワークへ加盟申請をし、日本ジオパーク委員会の書類審査、プレゼンテーション(5月)、そして市民の活動が大きな評価の対象となる現地審査(7~8月)に臨みます。引き続き皆様とともに認定を目指し頑張っていきたいと考えておりますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。

なお、推進協議会のHPを立ち上げました。萩市HPのトップページ上よりクリックすると、ページが開きます。是非、ご覧いただきますようご案内いたします。



(萩市HPのトップページ上の右下をクリック)

2016年1月の予定

○第8回日本ジオパークネットワーク全国研修会 1月24日(日)・25日(月)、場所:石川県白山市・福井県勝山市、主催:白山手取川GP・恐竜溪谷ふくい勝山GP・日本GPネットワーク

○教育講演会「ジオパークを学ぶ」 1月31日(日)、14:00~15:30、場所:大井公民館、連絡先:0838-28-0213、主催:大井商工振興会・大井の教育を考える連絡協議会・大井公民館